



知っていますか？ シックスクール

子どもの環境を考える親の会
連絡先 0134(25)1182 or(27)5100
e-mail sato-jin@star.odn.ne.jp
No.97 2012年4月
会報は皆さんの会費によって作られています。
郵便振替 02760-4-77134 1100円/年



「安全神話」放射線授業の押し付けはもうたくさん！

再び学校教育の中で

横浜市立の小中学校で、放射線の基礎知識についての授業が始まりました。文部科学省が昨年10月に公表した「放射線等に関する副読本」を横浜市教育委員会が要約し、A3判のプリントにしたもの。内容は放射線の性質や活用法についての説明が中心で、「私たちは今も昔も放射線がある中で暮らしています」。スイセンから放射線が出ていることを示す写真とともに、教材はX線などの活用法、放射線の単位や測定法、事故が起きた時の身の守り方などを解説。市教委は、「公的に作られた副読本なので引用した。まずは基礎的な知識を学んでもらうのが狙い」と説明し、教員向けの研修会まで開き、年度内に授業をするよう求めているそうです。

中学校教諭は「原発事故で多くの人が苦しんでいるのに、『安心神話』を振りまく授業になりはしないか」などと懸念しているようですが、以下の内容なら当然そういうことも起きるでしょう。

★横浜市教委が作成した教材の抜粋

- ・放射線は、太陽や蛍光灯から出ている光のようなものです。・目に見えていなくても、私たちは、今も昔も放射線がある中で暮らしています。・放射線の利用が広まる中、たくさんの放射線を受けてやけどを負うなどの事故が起きています。・一度に100ミリシーベルト以下の放射線を人体が受けた場合、放射線だけを原因としてがんなどの病気になったという明確な証拠はありません。しかし、(中略)放射線を受ける量はできるだけ少なくすることが大切です。・事故が収まってくれば、それまでの対策を取り続けなくてもよくなります。自然にある放射線や病院の엑스線撮影などによって受ける放射線の量で健康的な暮らしができなくなるようなことを心配する必要はありません。

エジソンと助手のダリー

さて、X線を年に何度も浴びたり、同じ部位のCTスキャンを何度も撮ったりすることは、発ガンリスクを高めます。エジソンはX線透視装置を発明しましたが(1896年)、その実験台に助手のC. ダリーを使いました。ダリーは実験のために、両手、両足に何度もX線を浴び、皮膚がんを発病し、手術で両手両足を切断後、放射線障害で死にました。エジソンはその後、すべてのX線の研究から手を引いたそうです。

そして、医学の世界では、X線の量を少なくし、医療従事者が年間に浴びてもよい被ばく線量を決めたり、防護服の着用などを義務づけるようになったそうです。

医療被ばく大国を支える放射線検査

「日本人のすべてのがん死のうち、4.4%はγ線による検査(X線・CTスキャン)によるもの」というイギリスの報告があります。本来、X線検査やCTスキャンは健康な人が受けるべき検査ではありません。日本では、検査時に放射線検査の利益とリスクについて説明を受けることはなく、「被ばくが心配」と訴えると「低線量だから心配ない」と言われます。一般の人がX線のリスクを知らなければ、喜んで検査を受けてしまいます。このような現状が医療被ばく大国を支える一因となっているといえます。

原子カムの住人に同じことをさせてはいけない

学校での放射線授業には、日本原子力文化振興財団などの団体や、自治体、電力会社が大きな役割を果たしてきました。これらの財団などは、文部科学省や経済産業省などから委託を受けて、莫大な予算を使い広報活動を行ってきました。放射線教育活動の成果報告書の『一段と重要性が増した放射線教育』の序文には「・・・現状を放置しておくとならぬ放射線を恐れて、原子力の一般の受容が進まず、エネルギー問題の観点から日本の前途が危なくなる・・・」と書かれているそうです。原子エネルギーの受容促進のためには「少しの放射線を恐れさせないこと」が必要であるという教育をしているのがよくわかります。上記の団体では、教科書に放射線や原子力エネルギーがどのように記述されているかを調査し、放射線に危険性があるとか、原子力エネルギーの受容を進めるのに不都合な記述があると、これを改めるように文部科学省に要望書を提出していたといっています。

先生だけではどうすることもできません。保護者が、しっかりと現実を見極める努力が必要です。



修学旅行は命がけ？子どもを汚染地域へ行かせますか？

首都圏の多くの小学生が修学旅行で訪れる栃木県日光市に対し、放射線量測定や宿の食材の産地公表などを求める動きがでています。

「横浜市の修学旅行を考える会」は、文部科学省が作成した放射線量の分布マップで、日光市の一部地域で1㎡あたり10万～30万ベクレルの放射性セシウムが地表に蓄積されたということから、訪問先の放射線測定結果や宿でだされる食材の産地公表などを求めました。横浜市教育委員会は、観光地を測定し、「2～3日の滞在では問題ないレベル」と結論。しかし、保護者の心配は消えません。「宿泊施設の食材について日光市からの回答は、データが少なく、判断材料にならない。家庭で線量が高そうな地域の食材を避ける努力をしているのに、半ば強制的な修学旅行で台無しになってしまう」と訴えています。

相模原市の「こどもまもりたい」は、行き先変更を求める保護者たちの2400筆の署名を教育委員会に提出し、「汚染状況重点調査地域で子どもたちが線量計をつけている場所に、修学旅行に行くのはおかしいのではないか。修学旅行へ行く以外の支援方法があるのではないか」など話し合いを持ちました。その後、教育委員会と校長会の代表が日光へ視察に行き、線量その他を調べ、日光への修学旅行は問題なしとの見解をだし、2012年度の修学旅行は全校が日光市方面へ行くことと決めてしまったそうです。

受け入れ先の日光市で放射能を心配する「日光の子供を守る会」では、「(他県の)子ども達には日光へ来て欲しくない」と言います。「日光の子どもたちは、ひどい線量下で日常生活をさせられています。日光市は、放射能の危険性さえ知らせていない。日光の保護者は助けを求めています。日光市が毎週測定を始めた観光地の数値は、30秒後1回での測定で、いかに低く線量をだすか。ひどいものだ。」と現状を訴えています。日光市では、地元の人が放射能が危ないと発言すると、周囲から白い目で見られるのだそうです。

岩手、宮城両県の被災地へは、県外の小中学生らが修学旅行や校外学習の一環として訪れているといいますが、国立市の私立桐朋中学、横浜市の神奈川大付属中、むつ市の川内小学校、山形県最上町の小学校なども、教員の「被災地に触れ、何かを感じてほしい」との意向で、例年通りの修学旅行先に決めたそうです。

修学旅行は教育の一環として行なわれるのですから、誰もが「安心」して行ける地域を選ぶべきです。直接被災地を見て学ぶのが良いとする学校の意向には疑問を感じます。



そうとう“ヤバイ”大阪維新の会 「残念な卒業式」で残念だったのは誰か

大阪維新の会所属の府議会議員西田薫氏は卒業式に来賓で呼ばれ、君が代斉唱時に不起立だった教員について自身のブログにこう書いた。

↓維新の会 西田薫府議会議員の(自己陶醉)ブログ

「冒頭の国歌斉唱の際、不起立教員がいました。生徒たちの前で、それも一番前の席で。式の始まる前、校長先生に「先日、他校で不起立の件が報道されていましたが、まさか本日はそんな事はないでしょうね～」っと会場に入る前に歩きながら話をしていました。驚くことに校長曰く「分かりません。職務命令は出しましたが。」とのご回答…。びっくりしました。「分かりません」って？まるで他人事のように。警察組織だったらどうでしょう。凶悪犯が立てこもっている。現場を指揮する上官に、部下は突入してもらえますか？との問いに「分かりません」って答えるのでしょうか？校長って何なんでしょう。いつもなら「卒業生の皆さん、卒業おめでとう～」っと大きな声で一言話しますが、本日は「皆さん、ごめんなさい」「社会の常識、社会のルールを教えるのも学校なのに、そのルールを守れない教員がいることをお詫びします。ほんとうにごめんなさい。」と…。こんな挨拶したのは初めてです。(中略)私は、ただただ純真無垢な子ども達に、お詫びの気持ちでいっぱいでした。申し訳ない気持ちで、笑うことも出来ませんでした。このような不謹慎で偏った思想を持った教員に、触れさせていたことに。それも公教育の場に於いて。……」

※この記事がアップされてから高校の卒業生や保護者とおぼしき人々から抗議のコメントが殺到。『「堺からのアピール」教育基本条例案を撤回せよ』を参照。

↓このことに対し生徒からの抗議のメール

(前略)いくら条例で決まっているからとはいえ、あたたたち卒業生におめでとうの挨拶もなしなのですね。まず第一に、昨日の卒業式での主役はあたたたち卒業生です。たくさんの方々に感謝して抱えきれない思い出を持って、とても良い学校だったと胸を張って言い切れます。その最後の最後の思い出となる卒業式を、あのような形で雰囲気をぶち壊したのは西田さん、あなたです。答辞をきちんと聞いていただけたでしょうか。あの答辞は、私たち生徒自身で考え出来上がったものです。あれを聞いても、私たち生徒が、どれだけ先生方に感謝しているか、どれだけ学校の友達や先生すべての方を大好きなのか、西田さんには、伝わっていなかったのですね。とても残念です。両親に続いて、我が子のように時に厳しく、時に優しく私たちをここまで育ててくださった最高の恩師をけなされて黙っていられません。どこまでも不快な思いをさせられました。

(卒業生 2012-03-09)

*不起立の先生方は、前日に自分が起立しないことを生徒にちゃんと伝えていたそうです。



特集1 食材を購入する時どんなことに気をつけていますか？

40代～50代女性30名に簡易アンケート調査(2011,12)しました！

1位 産地・・・北海道、西日本、九州産のものを購入

2位 地場産でその季節の食材を購入

3位 生協の共同購入など利用

★**魚** 回遊魚を買う。日本海で採れたものを選ぶ。魚を食べる回数は激減した。

★**肉** 産地が北海道、西日本、九州産のものを購入。牛肉は食べなくなった。ハムやウインナーが心配。

★**パン** 道産小麦を使用していること。山崎のパンなど「食べて応援」している企業のもは買わない。

★**牛乳** 北海道の牧場の牛乳を飲んでいる。・雪印や明治のものは飲まない・ヨーグルトはやめました。

★**悩み** 葉物野菜はなかなか買えない・一時期レタス、チンゲンサイ、にら等葉物が茨木産しかおいてなくて困りました。・近所のお店には、鶏肉が東北のものしか置いていない・きのこが食べたいが、心配で食べられない。外食ができなくて残念。小学校の給食だけは何とかして！加工品、お菓子類がよくわからないので心配です。

★**工夫**していること

・野菜類は良く水洗いする・時々子どもにココアを飲ませている・毎日新聞で市の線量をチェック・夏場は家庭菜園を利用・添加物を取らないように手作りを心がけている・産地が書かれていないものは買わない・東北産の食品及び加工品は買わない・お手軽調味料を使わない。調味料はまともに醸造してるものを買う・味噌などは手作りしている(北海道産の無農薬原料)・貯蔵がきき、栄養バランスがいい雑穀と豆をストックする・農水産物は、福島、茨城産のものは買わない。・栃木、埼玉のものは極力避ける。選べるときは、できるだけ福島から遠い産地のものを選ぶ。・輸入品は、農薬や添加物が心配なので避けている・外食は回数を減らし、極力子どもは連れて行かない。・九州の水俣から子どもがよく食べるお茶や海苔などを購入している・メーカーに放射能の測定をしているか、その値を問い合わせている・発酵食品(味噌汁や納豆)をこまめにとるようにしている。なるべく無農薬の物を選ぶ。・乾物などを利用して栄養に気をつけている

★**番外** どの誰が作った物であるか、はっきりしていること。・おいしいので青森産のニンニク、りんごは買っている。・お店にでているものは、きちんと測定して大丈夫なものがでていると、信じて買ってます。・うちじゃタイ製の缶詰食べている猫が一番安全かも？

特集2 がれき受け入れ反対！

“原発チルドレンお誕生日おめでとうプロジェクト” 沖縄の「子ども笑顔ネット」から

3月の原発事故の後、関東に放射性物質が最も飛散した直後、私の赤ちゃんは生まれました。アメリカでは、福島原発事故により飛散した放射性物質が到達してから14週間で、通常より14000人多く死亡したとされています。特に1歳未満の乳児の死亡率が上がりました。しかし、日本ではこうした研究すらされていないのではないのでしょうか。計画停電の中、助産院で微笑む赤児の顔を眺めながら、水道水に検出された放射性物質の量を検索しました。しかし、自分では動けないので、放射性物質が検出されている水で沸かして下さったお茶を何リットルも飲んで授乳しました。当時2歳の長女は、保育園で、いつも通り、牛乳やお茶を飲み、給食を食べていました。産後1ヶ月、何もできなかったという悔いは一生消えることはないでしょう。だからこそ、今、生きている子ども達のために、安心して食べられるお米や野菜を残したいと思います。

全国にガレキを拡散して、焼却する計画は、被災地から避難した人たちの逃げ場を奪いつつあります。被災地で防波堤や盛土にガレキを利用したり、安全性の高い専用焼却炉を建設したりすれば、経済的効果や長期的雇用も生まれます。ガレキの広域処理による観光業・農林水産業へのダメージや、運送費や宣伝費、市民に対応する行政職員の人件費等のコストは膨大です。税金の無駄遣いは、子ども達に負わされた借金になります。こんな過酷な状況でも、日々笑ってくれる赤ちゃんがまだ日本にはいます。誕生日を迎えられなかった赤ちゃん達への鎮魂の思いを込めながら、今生きている子ども達を祝福したい気持ちでいっぱいです。この1年、何とか生きのびてくれた子ども達が、20年後、成人をむかえた時、どんな世界になっているのでしょうか。その世界を作るのは私達自身です。

おかしいぞ???

環境省発表の阪神・淡路大震災の瓦礫は2000万トン。東日本大震災は2300万トン。即ち岩手・宮城・福島3県に及ぶ後者は、被災面積当たりの瓦礫分量は相対的に少ない。阪神大震災の時のガレキ処理費用は1トンあたり2万2千円、今回の岩手の処理費用(税金)は6万3千円、宮城5万円???広域処理は、税金の無駄遣い！政府は、阪神・淡路大震災以前から、産業廃棄物も一般廃棄物も「持ち出さない・持ち込ませない」の域内処理を自治体に行政指導してきた。それなのに・・・?????

おしらせ♪

定例学習会の開催日を、当会ブログにアップすることになりました。書庫の『子どもの環境を考える親の会』の中の「小樽・子どもの環境を考える親の会について」の最後に、毎月月末にアップします。そちらをご覧のうえご参加ください。pcがない方は当会までご連絡ください。

食品会社に問い合わせよう！

危険な野菜や牛乳は、そのまま売られるものもありますが、ごまかしの効く加工食品に多く使われることが推測されます。これらは、広く全国に出回るでしょう。パン、総菜、レトルト食品、菓子類など、あらゆる食品に危険が迫っているのです。

しかも、個人レベルで購入できるガイガーカウンタでは、食品に含まれる放射性物質の量を測ることは、基本的にできないようです。

こうなったら、消費者ひとりひとりが、食品会社を動かすしかありません。とにかく自分が口にするメーカーに、電話、メール、FAXで問い合わせましょう。問い合わせの数が増えれば、企業も動かざるを得ません。

以下にサンプルを作りました。

★ショートバージョン(400字以下)

はじめまして。〇〇と申します。いつも御社の商品を受用している消費者です。

御社の製品の放射線基準についての要望です。現在、日本政府が設定している放射性物質の暫定基準は、WHOなどの世界的基準から見て非常に緩いものです。そこで消費者が安心して購入できるよう、御社の全商品に以下の情報公開を求めます。

(1)食品の原産地
(2)加工食品に使用する原料の原産地
(3)それぞれの原産地の周知の方法(どこに記載されるのか)
(4)御社独自の放射線調査の有無とその基準値

以上4点の情報を公開して頂けるか、ご返答いただきたいです。ご返答の内容は、私の家族、友人、インターネットを通じて伝えようと思っています。消費者の健康を守るため何卒ご検討ください。ご返答をお待ちしております。

国の暫定基準値がひどいものであるとメーカーに知ってもらいましょう！

工場所在地も聞いてみましょう！

検査機器の検出限界値も重要です。例えば0.1Bq/kg未満と50Bq/kg未満とでは不検出(ND)の意味が異なります。

原発被災地の野菜を積極的に使うと表明している企業

2011/07/26 現在

今は少し変っているかもしれませんが

れません。

サブウェイ

イオンビッグボーイ

山崎パン

てんや

サイゼリヤ

大戸屋

大阪王将

リンガーハット

マック

セブンイレブン

イトーヨーカドー

ゼンショーすき家

なか卯

ココス

ジョリーパスタ

はま寿司

牛庵

バーミヤン

東急ストア

江崎グリコ

エバラ食品

エコスグループ

ヤオコー

たからやフレサ

JA

コープ神戸

ジョナサン

雪印

アサヒビール

ワタミ

デニーズ

ケンタッキー

ガスト 等等・・・

小僧寿し(スカイラーク)

＊ヤマザキパン

被災地方の食材を使ったパンを開発しました。継続して東日本の食材を使うことで、消費者だけでなく生産者の方々にまで復興支援をしてみたいです。



＊江崎グリコ株式会社

東北地方で取れた生乳を使用したカップアイスクリーム「牧場しぼり」の全国取扱い販売店にて、「食べて応援しよう!」の取組を実施します。



♡田中 優さんから「沖縄まで瓦礫受け入れするの？」

判断する前に知っておいてほしい。戸羽太・陸前高田市長、伊達勝身・岩泉町長がこう言っている。「現行の処理能力では、全ての瓦礫が片付くまでに3年かかる。そこで市内に瓦礫専門の処理プラントを作れば、自分たちの判断で今の何倍ものスピードで処理ができる。国と県に相談したが門前払いで断られました」「納得できないことが多々ある。瓦礫を山にしておいて10年、20年掛けて片付けた方が地元で金が落ち、雇用も発生する。もともと使っていない土地がたくさんあり、処理されなくても困らないのに、税金を青天井に使うって全国に運び出す必要がどこにあるのか？」と。

東京都に搬入予定の瓦礫処理を受け入れる元請け企業は、東京電力が95.5%の株式を保有する「東京臨海リサイクルパワー」だ。これはただの利権ではないか。絆とは利権の言葉なのか。それより瓦礫で現地に防波堤になる山を築いたほうが良くないか。

♡小出先生の「がれき問題」の正しい考え方(週刊金曜日 887号)

☆放射能というのは、閉じ込めるのが原則・・・薄めて広げるのではなく、コンパクトにして閉じ込める

→つまり、がれきを全国にばら撒くということは原則に反している。がれきは持ち出さず、現地に専用の焼却施設を作り、全てそこで処理する。

☆放射能に汚染されたがれきを放置、野ざらしにしていることでその地域の子どもが被ばくし続けるような場合は、以下の2つが条件をみたせば全国での引き受けも仕方ない。どうしても、全国にがれきを処分させるなら―

①放射能は、放射能を取り扱うために設計された施設以外では扱ってはいけない(普通の焼却炉で燃やしてはいけない)。→もし、自治体の焼却炉で燃やすなら①専用フィルターはついているか。

②フィルターは正しく作用しているかを確認してからでなくてはならない。

②自治体の焼却炉で燃やしたがれきの灰を、自治体で埋めてはいけない。

→燃やしたがれきの灰はどうするのか。焼却灰は、福島第一原発に返すこと。福島第一原発はこれから膨大なコンクリートを必要とするはずだから、そこでコンクリートの材料として焼却灰を使うのがいい。

＊大阪維新の会のメンバーがが、「がれき問題について意見を聞きたい」と小出裕章先生の職場まで出向いた。小出先生はメンバーに「二つの条件を満たさなければがれきのバラマキはやってはいけない」と伝えたのに、それを無視して「がれきは受け入れるしかない」と、小出先生が言っている」と言いふらしているそうです。